

早期体験実習 1 a (シミュレーション実習)

【単位数:0.5単位、授業25コマ】

1 科目責任者

早稲田勝久 教授(医学教育センター)

科目担当者

森下 啓明 准教授(シミュレーションセンター)

2 教育目標

(1) ねらい(I-1-c, I-12-c, I-13-c, I-14-c, I-15-c, II-1-c, II-2-c, II-3-c, II-5-c, V-5-c)

- ① 本学のコンピテンスである「プロフェッショナリズム(チーム医療・医療安全)」、「コミュニケーション」について、シミュレーション(グループ学習・能動的学修)を通して、その意義を理解する。
- ② 早期から医療現場を体験するにあたり、演習で多様な人々、場面でのコミュニケーション方法を体験し、医学生として良好なコミュニケーションに必要なスキルを身につける。
- ③ 早期体験実習1b, 1cで、指導者と共に実施可能なケア技術を、身につける。

(2) 学修目標

- ① グループ学習を通じ、能動的学修の意義と自己の課題を説明できる。
- ② 様々なコミュニケーションを体験し、「話す」「聞く」「伝える」ために必要なスキルを説明できる。
- ③ バイタルサイン(呼吸、脈拍、血圧)測定、移乗・移送介助、体位変換、衛生的手洗い、個人防護具の着脱について、知識を得ることができる。
- ④ バイタルサイン(呼吸、脈拍、血圧)測定、移乗・移送介助、体位変換、衛生的手洗い、個人防護具の着脱を実施できる。
- ⑤ 学んだ診療補助業務について、お互いに指導・評価することができる。

3 成績の判定・評価

(1) 総合成績の対象と算出法

	成績対象	割合	方法・コメント
レポート	○	60%	コミュニケーション及び担当した技術に関するレポート
態度	○	20%	・グループ学習の参加度(役割遂行)の自己評価、他者評価 ・技術指導時の参加度(役割遂行)の自己評価、他者評価
小テスト	○	20%	演習した項目に対する知識確認

出席：実習を修得するためには、欠席をしてはならない。

(2) 合格基準

評価対象の合計が60%以上(又は60点以上)で合格とする。

(3) 再試験・再評価の方法

面接の上、課題・レポートを課す。

実習を欠席した場合は、面接後、補習又は追加レポートを課す。

(4) 課題（試験やレポート）へのフィードバック

各演習時に、その都度全員にフィードバックする。

4 教科書

書名	著者名	出版社	教科書として指定する理由
指定教科書なし			

5 参考図書

書名	著者名	出版社	参考図書とする理由
診療ができるVol. 1	古谷伸之 他編集	Medic Media	学習する手技の解説が掲載されている (バイタルサイン、手洗い、心肺蘇生法)。
診療ができるVol. 2	近藤一郎 他監修	Medic Media	学修する手技の解説が掲載されている (注射・心肺蘇生法)。
看護技術がみえる1	藤本真紀 子他監修	Medic Media	学修する手技の解説が掲載されている (体位変換他)。
看護技術がみえる2	佐藤久美 他監修	Medic Media	学修する手技の解説が掲載されている (感染予防、酸素療法他)。

6 準備学習（予習・復習）

予習

総合学術情報センター(図書館)から配布される「ナーシングスキル®」のID及びパスワードを各自確認しておく。実習内容を復習し、後日実施される早期体験実習1b(看護体験実習)で実際に患者さんに実施できるようする(毎日0.5時間)。

7 授業計画

(1) 講義の方法

シミュレーションセンターにおいて、全体講義及びグループ学習を行う。

(2) 講義の内容

「話す」「聞く」「伝える」のコミュニケーションスキルの基本を学習し、ロールプレイを行う。

診療補助業務の技術をグループで学習した後、お互いで指導しながら、身につける。